

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196700181		
法人名	三村電機工業 株式会社		
事業所名	グループホーム えがおの家(A・Bユニット)		
所在地	天塩郡天塩町字川口5692-1		
自己評価作成日	令和5年5月1日	評価結果市町村受理日	令和5年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設して5年目が経過し、町民の方にもグループホームとはどんなところなのかということが少しずつ浸透し、もともと町内にあった特別養護老人ホームとの施設形態の混同が少なくなったように感じています。
 ただ、感染症の流行で、地域住民との交流がほぼない状態が続いていました。来年度は感染症による規制もだんだんと緩和されてくると思われるので、少しずつ知己住民との交流を増やしていけたらと考えています。
 また、グループホームとは？というのがどんなものが少しずつ浸透してきたとはいえ、まだまだグループホームならではの特徴についてはまだまだ認知されていない部分が多いので、それについてもっと周知していけたらと考えています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0196700181-00&Se
-------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和5年5月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛、愛の中に心がある」を基本理念に「待つ、見守る、やさしい笑顔」を職員全員で共有し、画一的なケアではなく、個人個人の持つ能力を活かしたケアを実践しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、以前は総会などにも参加させていただいていたが、感染症の影響で交流の場がほぼ持ていない状況です。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症の影響で、人が集まる場がなく、認知症についての発信は出来ていない。ただ、入居の申し込み前の段階で、GHIに相談に来られた方については、他のサービスのことなどの助言も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での報告が多かったことと、感染症の流行具合を考えすぎてしまい、時期の決定が出来ずに、定期的な開催が出来なかった。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当の役場職員と密に連絡を取り合い、入居状況などの情報共有を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束は未実施。過去にも事例無し。ユニット会議毎に身体拘束廃止委員会を行っている。身体拘束についての話し合いも実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	オンライン動画研修のシステムを導入し、研修内容に組みこんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	オンライン動画研修のシステムを導入し、研修内容に組みこんでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をかけて説明をしている。契約後でも疑問等があれば時間を設けて説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や利用料の支払い時、電話での問い合わせがあった時などに、何か意見や要望などはないか聞き取るようには職員に周知している。 また、外部機関への問合せや相談機関の紹介も契約時に重要事項説明書にそって説明している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニット会議時に職員からの意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の要望や家庭環境を考慮し、シフトを作成するなど、職員が働きやすいよう努めている。 また、昇給の仕組みを取り入れ、努力が昇給に繋がるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格の取得や研修への参加を推奨し、本人の希望の研修に参加できるようにシフト調整を行い、本人の向上心を阻害しないよう努めています。 また、オンライン動画研修を利用し、基礎的な研修は全員が受講できるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症の影響で、交流などは出来ていない状況ではあるが、管理者レベルで情報交換などを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族や本人と面談し、入居に当たっての不安や要望を聞き取るよう努めています。また、入居後も管理者を中心に生活に慣れるまでの支援を行い、希望があれば面談も実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族や本人と面談し、入居に当たっての不安や要望を聞き取るよう努めています。また、入居後もご家族からの要望にはなるべく応えられるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や、居宅のケアマネージャー、入院先の病院スタッフなどから情報提供を受け、入居前に入居予定のユニット職員とカンファレンスを行い、サービス開始時のケアの方針を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ることを探りながら生活に参加していただけるように実践している。ただ、シフトによって人数が少ない時など希望に添えない時もあり、今後の課題。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症の関係で面会制限を実施することが多く、あまりご家族との関係を構築する機会が設けられなかった。こちらからもっとご本人の様子を報告するなどのアプローチがあっても良かったと反省している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症の影響で、面会や外出の希望になかなか沿うことが出来なかったが、感染症の状況を見ながら家族の支援のもと、柔軟に対応している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないように出来るだけ共有スペースに集まれるようにおやつや水分補給の時間に声掛けをして居室から出る機会を設けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後に町内で会った場合など積極的に声を掛けさせていただき、近況を聴いたり、何かあった場合には相談を受ける旨を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に面談を行い、その場で家族や本人からの生活の意向を聞き取るようにしている。また、入居後も本人からの要望などがあった場合には、記録・共有し、ユニット会議でその希望に添えないか検討をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行い、その場で家族や本人からの生活の意向を聞き取るようにしている。また、その情報をもとに実際に行っていた生活サイクルをできるだけ実践できるように支援している。また、居室には備えつけの物は置かず、出来るだけご本人が使用していた家具などを持ち込んでもらい、自宅のイメージを持って生活できるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に行ったアセスメントをベースに各個人の情報を各職員で共有できるようにしている。また、日々の生活の中で何かすぐに変更しなければならない事柄があった場合は基本的に管理者主導で情報を発信し、共有する。それ以外の事はユニット会議にて職員と検討をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前のアセスメント後にその情報をもとに会議を行い、ケアプランへの作成への意見を出し合っている。入居後は計画作成担当者を中心にモニタリング、アセスメントを行いケアプランの作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はタブレットを使用して記録している。記録のデータ化により記録の振り返りが簡単にできるので、それをもとに情報共有をして、何か変化があればそれに沿ったケアの実践をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の外出や買い物、なじみの理美容院の利用支援、家族希望の外出、外泊にも対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会などの地域資源との活動に関しては、感染症の影響でほほない状況。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力病院である町立病院の医師をかかりつけ医とさせていただいているが、入居前に受診していた病院など本人や家族の希望があれば、その病院受診の継続にも対応している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員としての看護師の配置はない。しかし、町立病院と連携し、何かあった場合はすぐに相談、対応できる体制は出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	もともと入居前に町立病院がかかりつけの病院である方がほとんどであるため、詳細な情報のやり取りは必須ではないが、入居後の生活の様子や入居前から見て変化のあったことや、もともとかかりつけ病院が違う方の事については情報提供シートを作成し、スムーズに情報のやり取りができるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師の配置がないので、現在は終末期の対応はしていない。その旨については入居時に説明し、同意していただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院の助言をもらい、急変時マニュアルを作成し、それに沿った対応をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成し、職員に周知している。また、感染症の影響で消防職員の指導は受けられていないが、施設内での訓練は実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人のこだわりを尊重し、尊厳のある生活を営むことができるように支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから希望やこだわりを確認し、希望が実現できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日ごろから1人1人との関わりを持ち、各個人のペースに合った、画一的ではないケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師免許がある職員による散髪を実施したり、馴染みの美容室への移動支援。町内の美容院の訪問を受け、その人らしさを損なわないような支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は調理されたものの提供となっているが、月に何度かは、各季節の旬の物を提供したり、誕生日には外部のお店でお寿司やオードブルを注文したりと、季節などを感じてもらえるように工夫している。調理の参加については、毎回ではないが、出来ることについてはお願いしている。下膳については全入居者が参加してくれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力機関の意見を聞きながら、それぞれの適量を理解して食事や水分を提供している。また、咀嚼や嚥下、便の状態から食事形態にも配慮して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝前にご本人の状況に合わせて支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況を記録し、1人1人のパターンに合わせて支援が出来るように努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸に働きかける食べ物を定期的に提供したりできるだけ運動を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフの配置に余裕がないため、夜間や夕方の方の入浴に対応できていない。しかし、基本的な曜日は設定しているが、日中であれば、別日の入浴希望などには対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有スペースの消灯時間は決めているが、居室内での生活には個人の生活サイクルを尊重している。健康上影響のない範囲で就寝時間も個人に任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者が受診の付き添いをしているので、そこで確認した服薬状況(薬の変更や病状の変化等による新規の処方)をまとめ、各職員に、周知。共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員が身の回りの事すべて行うのではなく、各個人が出来ることを見極め、居室の掃除など出来ることに関しては実践していただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や役場への用事、理美容室への外出は職員が移動や付き添いの支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承を得て、金銭管理が出来る方については、本人に金銭管理をしていただいている。GH内の自動販売機や、買い物の支払いについても自身で出来る方についてはそのように出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中には携帯電話を所持し、自由に電話をしている。また、GHの電話についても使用は可能で、子機もあるため、自室での電話も可能となっている。手紙については、本人の希望があれば、代筆・代読の支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度、音、職員の話し声など入居者が不快にならないように配慮し、居心地のいい空間作りに努めている。リビングには新聞を置いたり、季節に合わせた飾りつけを行い、季節が感じられる工夫もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士の相性などに気を使い、それぞれの居場所に配慮している。また、職員の間から外れる場所にもソファを置き、気兼ねなく話せる空間作りも実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族に説明し、馴染みのある使い慣れたものを使用していただき、自宅での環境を再現できるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員は各入居者の身体能力を把握して、安全で自立した生活が送れるように、リビング、居室、廊下、トイレ等の環境作りに配慮している。 身体能力に変化が生じた場合には、その情報も共有し、必要に応じて改善できるように努めている。		